

B—81 身心発達段階における Technique profile の諸問題追求について (第2報)

郡山女子短大 関口 富左
門馬 寿子

1. 研究の目的 前回(短大生, 19歳~20歳)(高校生, 16歳~17歳)に引続き, 中学生(13歳~14歳)を対象として, 発達段階における工作技術指導上の問題点をさぐるべく T.P を基として, 技術のタイプ上の特性およびそれによる知能等諸性能との相関, 性格特性との相関等により, 被服技術の科学的解明を試みる。

2. 方法 被検者…中学生(13歳~14歳) 20名, 資料, 木綿浴衣地(淡青色) 40反を用う。日時, 昭和38年7月28日~8月6日, 大裁女単衣長着を製作し, これをS式評価方法により, T.P 分団指導を行ない, 各自のT.P の変化および性格特性, 知能等諸性能との相関を出す。

3. 成果 (1) 中学生(13歳~14歳)時には, T.P の固定性は減少し, 移行性およびその中間型が多く見られた。(2) 性格特性との相関も, き帳面さと正確度において0.652, 速度と行動とに0.459を見たが他は相関なく, 高校生と異り, 統一性がない。(3) 諸性能との相関も高校生よりもさらに低くほとんど見るべきものがない。全体として, 技術的に, 知能的に, 性格的にいずれもよりどころを見ないので, これ等より推察すれば, この年代の技術指導は不適當と見るべきで, 科学的指導の基盤を認めがたい。